

優秀賞

うれしくなったできごと

妙円寺小学校 2年 しん名ず ゆうき

ぼくのすきなことは、でん車にのることです。1人で、かごしましのおばさんのいえまででん車でよくとまりに行きます。1人でのるのはどきどきするけれど、でん車のうんてん手さんがうんてんするのを見に行ったり、どんどんかわるけしきを見たりすることがたのしくて、そんなどきどきもすぐにわすれてしまいます。

ある日、ぼくがおばさんのいえに行くためにでん車にのっていると、おばあさんが次のえきからのってきました。おばあさんはゆっくりとぼくの方へ歩いてきました。ぼくは、「せきをゆずった方がいいかなあ。」と考えていました。「どうしようかなあ、ゆずろうかなあ。」と考えているうちに、おばあさんがぼくの前を通りすぎようとなりました。ぼくは、思わず、

「せきをどうぞ。」

と言っていました。おばあさんは、

「ありがとう。」

とえがおで言って、ぼくがすわっていたせきにすわってくれました。

ぼくは、こころの中で、「よかったあ。」とあんしんしました。それからおばあさんがぼくに話しかけてきました。

「どこに行くの。」

「中おうえきです。」

と、ぼくはこたえました。

「1人で行くの。すごいね。」

なんだかぼくは、えらくなったような気がしました。ほめられてとてもうれしくなりました。それからしばらく、ぼくとおばあさんはいろいろな話をしました。ぼくのきょうだいのこと、でん車がすきでおばさんのいえに行くことなどを話しているうちに、かごしまちゅうおうえきまであつというまにつきました。おばあさんは、

「ありがとう。気をつけてね。」

と言っておりて行きました。ぼくは、おばあさんの後ろすがたを見ながら、「せきをゆずってよかったなあ。」と思いました。

おばさんのいえでのおとまりがおわって、おとうさんとおかあさんにその話をすると、おとうさんが、ぼくたちにもせきをゆずってくれた人たちの話をしてくれました。

ぼくたちが、ようやく歩きはじめたくらいのころ、かぞく5人ででん車にのったのだそうです。でん車はまんいんで、すわるところがなかったのだそうですが、ちかくにいたこう校生とおばあさんがせきをゆずってくれたのだそうです。小さい子ども3人つれてのっていたおとうさんとおかあさんは、とてもたすかったそうです。そんな話を聞いて、ぼくは、またとてもうれしくなりました。「せきをゆずったおばあさんも、かぞくに話してくれているといいなあ。」とぼくは思いました。

